

平成27年度 企画理事(地域構想推進担当) 運営目標の達成状況

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
1	～3つの京都プロジェクト～【海の京都】 住民自らが地域を誇りに感じる「海の京都」の総仕上げを進めます。				
計画区分	中期計画	京都力の発揮	希望に輝く地域づくり		
達成手段 (数値目標)	【全体マネジメント】 食を始め地域資源の磨き上げ、観光案内所の共同化や観光施設等のサービス向上など地域が連携しておもてなし力を強化し、来訪者が再び訪れたいブランド観光圏を形成します。 ＜観光入込客数 過去最高1,000万人以上(㊤実績:集計中、㊤実績:872万人)＞ ＜観光消費額 3,000円/人(㊤実績:集計中、㊤実績:2,461円/人)＞ ○民・地域主導の取組について、積極的に働きかけを行い、各市町のマスタープランを実現 ＜民主導の新規取組 200事業(㊤実績:125事業)＞ ① ○国の認定を受けた「海の京都観光圏」の整備事業を民間事業者等と連携して実施<25事業(㊤実績:23事業)> ○海の京都観光圏プラットフォームの参加機関を拡大し、地域で自律的に取組が継続する体制を構築 ＜参加機関 100(㊤新規)> ○ワークショップ等により地域住民へ「海の京都」の浸透を図るとともに、質の高い観光ガイド等の育成<50人(㊤新規)> ○観光圏内の観光案内所における全圏内の案内ができる人材育成と、ロゴマーク統一や機能強化による海の京都観光圏案内所の整備<案内所 10カ所、観光案内所コンシェルジュの育成 14人> ○観光事業者(宿泊施設・土産物店・レストラン等)に対し、専門機関等と連携しマーケティング調査に基づくアドバイス等の支援を実施<指導・支援実施施設数 50、観光事業者従業員へのおもてなし研修 300人(㊤新規)>				○観光入込数及び観光消費額:集計中 ○民主導の新規取組 209事業(105%) ○観光圏整備事業 14件(56%) ○観光圏プラットフォームの参加機関 81機関(81%) ○観光ガイド育成セミナーの実施 47人(94%) ○観光案内所整備 12件(120%)、観光案内所コンシェルジュの育成 15人(107%) ○観光商品開発等に係るアドバイス等の支援実施回数117件(234%)、おもてなし研修・人材育成研修104人(35%)
	【観光振興戦略拠点の整備と拠点間のネットワーク強化】 ○「海の京都」戦略拠点及び戦略拠点間の施設整備を推進 ・天橋立線(府中地区)景観整備等完了(地域主導)及び天橋立公園の施設リニューアルを完了 ・香美久美浜線等(久美浜町)の修景舗装完了及び久美浜湊宮浦明線(久美浜町)の2車線改良の事業推進 ・伊根港線景観舗装等整備推進(地域主導) ・国道178号等に景観配慮型防護柵を設置完了 ・加悦岩滝自転車道線の旧駅整備及び薄層舗装を完了 ・戦略拠点施設の案内板設置完了 ○「海の京都」周遊ルートの整備 ② ・国道178号蒲入バイパス完成・上野平バイパス事業推進、国道178号(袖志)・浜丹後線(宮バイパス)事業着手等「丹後半島一周京都の新海遊ルート」の整備推進 ○国際ランドブリッジ形成のため、日本海側拠点港計画を実現し、京都舞鶴港が「物流」の港から「人流・物流」の総合ゲートウェイとなることを目指します。 ・国直轄工事の促進支援(国際埠頭岸壁70m延伸、埠頭用地の造成、ガントリークレーンに加え、多目的クレーンを整備) ・第2ふ頭での国際フェリー就航に向けた施設整備 ・マリナー・オブ・ザ・シーズ(13万t級)を受け入れるための施設整備(国際ふ頭) ・多言語表記の観光案内板等、外国人観光客のための施設整備			◎	○「海の京都」戦略拠点及び戦略拠点間の施設整備を推進 ・天橋立線(府中地区)景観整備等完了(地域主導)及び天橋立公園の施設リニューアル7月上旬完了 ・香美久美浜線修景舗装:完了(H27.6)、久美浜湊宮浦明線で2車線改良の事業推進中 ・伊根港線景観舗装等整備推進中 ・国道178号景観配慮型防護柵:完了(H27.7) ・加悦岩滝自転車道線の旧駅整備及び薄層舗装の完了(H27.8) ・戦略拠点施設の案内看板 12基完了(H28.2) ○「海の京都」周遊ルートの整備 ・国道178号(蒲入BP)完了、3箇所事業推進中 ○日本海側拠点港計画の実現 ・国直轄工事施工中(上部工、埋立)、府工事中(仮護岸、埋立)、多目的クレーン設計中 ・就航状況を踏まえた施設整備内容の検討中 ・マリナー・オブ・ザ・シーズ受入施設整備完了 ・第2ふ頭旅客ターミナル供用開始

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	○各市町において「海の京都」の統一コンセプトに基づき、魅力ある景観形成を支援＜15施設以上(㉔実績:13施設)＞ ○海の京都博期間中における観光交通の実証実験の実施 ＜5事業以上(㉔新規)＞ ○京都丹後鉄道の魅力アップに向けた取組 ・特急車両のデザイン改修による魅力向上 ・京都丹後鉄道駅におけるアクセス交通再編を実施し京都丹後鉄道の利便性向上の取組の推進 ・運行会社とも連携した利用促進策の推進 ＜京都丹後鉄道利用者人数 200万人(㉔実績:184万人)＞ ○観光タクシー及びボートタクシーの導入 ○海の京都エリア内の道の駅の拡充整備に向けた支援・調整 ＜拡充整備4箇所(㉔新規)＞ とれとれセンター、丹後王国「食のみやこ」、宮津浜町、久美浜まちなか等 ○『ゆらりー』サイクリングロード、加悦岩滝自転車道線の積極的な活用 ○府の集客施設「丹後海と星の見える丘公園」「丹後王国『食のみやこ』『マリンピア』『丹後歴史文化博物館(仮称)』との連携を強化 ○「丹後歴史文化博物館(仮称)」を海に開かれ、海に育まれた海の京都の歴史や文化を体感でき、来館者を強力に誘引する る新しい博物館として整備を推進 ・「丹後歴史文化博物館(仮称)」の基本計画策定 ・誘客の仕組みについて民間事業者等と検討 ・「海の京都」丹後の歴史的魅力を紹介する特別展「大海原に夢を求めて」ほか企画展等の開催 ＜4企画展(㉔実績:企画展等3)＞		○9施設(申請は10施設、1件交付決定後に取り下げ)(60%) ○実証実験5件(100%) ○京都丹後鉄道の魅力アップに向けた取組 ・特急車両のデザイン改修を2編成行い、「丹後の海」として運行開始(H27.11) ・駅再生アクションプランを策定。先導駅として丹後由良駅、久美浜駅での取組に着手。 ・利用促進策推進 ＜特急車両リニューアル等設備投資への支援、海の京都博事業の実施、利用促進に係る事業者向けの広報チラシ等の作成など鉄道利用の需要増に取り組み、H27.12までの利用者は1,434,158人(72%)、対前年度比約3.4%増＞ ○京丹後市・伊根町において海上タクシー実施(2件)(100%) ○道の駅拡充整備に向けた支援・調整を実施 ○ゆらりー: SEATOSUMMITで活用、加悦岩滝: 与謝野町でレンタサイクル導入 ○府の集客施設の連携のきっかけづくりとしてオフサイトミーティングを実施 ○「丹後歴史文化博物館(仮称)」基本計画策定検討会議 2回 基本計画策定中 ○「海の京都」丹後の歴史的魅力を紹介する企画展等5回、シンポジウム1回(100%)
③	【海の京都博の開催】 5市2町が共通の目的意識の下「海の京都博」を成功させ、海の京都の魅力を全国に発信し、交流1千万人を実現します。 ○「メインイベント」「各拠点イベント」「コンセプトツアー」「テイクオフイベント」など海の京都博各種事業の展開 ○TANTANロングライド、SEA TO SUMMITで「海の京都」を全国からの参加者にPR ＜TANTANロングライド参加者数 1,500人(㉔実績:1,380人)＞ ＜SEA TO SUMMIT参加者数 1,300人(㉔新規)＞ ○コンセプトツアーや滞在コンテンツの磨き上げと販売体制の強化、ガイドブック作成など海の京都観光圏が有する魅力や価値の提供 ＜コンセプトツアー等の参加者 10,000人(㉔新規)＞ ＜観光地域づくりマネージャー等と連携した滞在型ツアー実施 30件＞ ○海の京都探訪事業による地域の魅力や価値を再認識・再発見 ＜探訪記(DVD付)販売 15,000部(㉔新規)＞ ○京都縦貫自動車道全線開通に向けたプレイベントの実施 ○海の京都エリアへの人の流れを促進させるため、全線開通に合わせた高速道路の周遊割引・観光施設等の割引を実施	○	○「メインイベント」: 台風により中止。「各拠点イベント」・「コンセプトツアー」: 各市町で実施済み。「テイクオフイベント」: 綾部市でミュージックフェスティバルを実施。 ○TANTANロングライド参加者数 1,651人(110%) ○SEA TO SUMMIT参加者数 3,077人(237%) ○コンセプトツアー等の参加者数 9,826人(98%) ○探訪記15,000部作成済・販売中(100%) ○7月12日縦貫道プレイベント(フリーウォーク等)実施 ○海の京都博に向けた周遊ドライブパス、クーポン冊子の発行
④	【「食」の拠点づくり等】 「丹後王国『食のみやこ』」を「海の京都」の中核的な集客施設にするとともに、丹後食材を使ったオリジナル特産品開発(6次産業)や「食」に関わる人材育成を行う10次産業化拠点として地域の活性化を推進します。 ＜「食」に係わる人材育成 50人(㉔新規)＞ ＜入園者数 50万人(㉔新規)＞ ＜新たな商品等の開発 7件(㉔新規)＞【丹後局】 ＜地域の農林水産物を活かした加工品の開発 試作品支援 5件(㉔新規)＞【丹後局】 ＜地域食材にこだわった学生レストランの開催 7校(㉔実績:7校)＞ ○京都ならではのブランド水産物などの生産を拡大し、府南部への販路拡大や地産地消の推進により、漁業収入の増加・安定を図ります。 ＜水産業産出額(府調査) 42億円(㉔実績:40億円)＞ ＜漁業者によるトリガイ養殖種苗生産数 10万個(㉔実績:3.5万個)＞ ＜丹後トリガイ、丹後ぐじの販売額 170百万円(㉔実績:68百万円)＞ ○京丹後漁師飯のフォローアップ ○各種イベント等での「長寿御膳・弁当」の提供を通じた民間による販売システムづくり ○「丹後のたからもの展」等の物産展及び商談会の開催 ＜10回＞	○	＜「食」に係わる人材育成:90人(180%)＞ ＜入園者数:52.6万人(105%)(H28.3.13現在)＞ ＜新たな商品等の開発 7件(100%)＞【丹後局】 ＜試作品支援 5品(100%)＞【丹後局】 ＜学生レストランの開催 7校(100%)＞ ＜水産業産出額(府調査) 38.3億円(91%)＞ ＜漁業者によるトリガイ養殖種苗生産数 8万個(80%)＞ ＜丹後トリガイ、丹後ぐじの販売額 193百万円(114%)＞ ○取扱業者へのヒアリング実施(9社)、民間での事業展開を提案 ○物産展及び商談会の開催10回(100%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
⑤	【インバウンド対策の推進】 クルーズ船などの外国人観光客おもてなし環境の充実のため、関西全体でのWi-Fi整備支援や免税店の拡大、観光案内所での多言語対応機器の整備を進めます。 ＜府内観光案内所等でのWi-Fi整備 15カ所＞ ＜免税ステーションの設置 5箇所(⑦新規)＞ ＜観光案内所での翻訳システム等、多言語対応環境の整備 20箇所(⑦新規)＞ ＜海外からの教育旅行インバウンド受入のための旅行会社やメディアなどのファミトリップ実施 2回、ツアー実施 1回＞ 【丹後局】 ○クルーズ船乗客の海の京都への誘客戦略の推進 ・クルーズ船の海の京都オプションツアーの造成と参加者拡大 オプションツアーの参加者 <3,000人(⑦新規)> ・クルーズ船の伊根町での寄港体制の確立(にっぽん丸伊根町初寄港) ・クルーズ船おもてなし行事の実施 <実施回数 7回> ○アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウムを契機に、ツアーの充実など、山陰海岸ジオパークの魅力を世界に発信 ＜参加者:アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウムのプレイベントである日本ジオパークネットワークガイドフォーラム 200人(⑦新規)>		○府内観光案内所等でのWi-Fi整備 補助金1件。625箇所整備(12月時点)(100%) ○免税ステーションの設置 3箇所(60%) ○観光案内所での翻訳システム等、多言語対応環境の整備 補助金1件 ○ファミトリップ・ツアーの実施 5回(167%) ○クルーズ船・オプションツアー参加者数 2,359人(79%) ○にっぽん丸 4月30日入港(100%) ○クルーズ船おもてなし行事の実施 8回(114%) ○アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウムのプレイベントである日本ジオパークネットワークガイドフォーラム396人(198%)
	【広域観光プロモーションの展開】 「海の京都博」の開催をはじめ、統一的なテーマ・コンセプトによる観光プロモーションを首都圏・京阪神圏・中京圏等に向け積極的に展開します。 ○海の京都観光推進協議会ホームページのリニューアル ○コンセプトツアーや滞在コンテンツの磨き上げ、新規ツアーの造成、ツアー販売体制強化、ガイドブック作成など海の京都の有する魅力や価値を提供 ＜コンセプトツアー、クルーズ船ツアー等参加者 10,000人(⑦新規)> ＜地域づくりマネージャー等と連携した滞在型ツアーの実施 30件> ○もう一つの京都のプロモーションの展開 ○東京をキーステーションとする全国大手メディアを活用したプロモーション展開等 ○中京圏の旅行会社や雑誌社へのファミトリップ・商談会の実施<旅行会社 5社、雑誌社 3社(⑦新規)>	◎	○「海の京都博」の開催に合わせ、協議会ホームページのリニューアル済み(100%) ○ツアー参加数 11,121人(111%) ○地域づくりマネージャー等と連携した滞在型ツアーの実施 31件(103%) ○3つの京都をPRする組曲「もうひとつの京都」の制作によるプロモーションの展開を実施 ○BS-TBSによる海の京都の特番「高梨臨がゆく～海の京都～」を制作・放映 ○中京圏の旅行会社等へのファミトリップ・商談会実施 旅行社7社、雑誌社3社(125%)
	【府北部地域連携都市圏の形成】 「京都府北部地域連携都市圏」の形成に向け、地域内連携による都市機能の向上と、生活機能の集約・交通網の充実等による交流人口の更なる拡大と労働生産性向上を通じた所得水準の向上を図り、定住促進を進めます。 ・京都北部地域連携都市圏形成推進協議会の設置	◎	＜連携都市圏構想など市町村の連携の取組支援＞ ・京都府北部の7市町が京都府北部地域連携都市圏形成推進を宣言するとともに、京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会を設立され、府もオブザーバーとして参画。観光、教育、産業、移住・定住、交通などの広域連携事業の実施に向けて支援 ・地方創生加速化交付金の申請に当たり、総務部とともに府・市町村連携事業を創出

2	～3つの京都プロジェクト～【森の京都】 来年度の「森の京都博(仮称)」に向け、地域の取組を拡大・強化します。					
計画区分	中期計画	京都力の発揮	希望に輝く地域づくり			
①	【全体マネジメント】 平成28年度のターゲットイヤーに向け、アドバイザーとタイアップしながら、各戦略地域等においてワークショップ等を開催し、森の京都の地域づくりを効果的に進めます。＜ワークショップ等の開催 100回以上(⑦新規)＞ ○住民・実践者や有識者等による「森の京都実践者会議」「森の京都観光推進協議会」、市町村毎の「協議会」を設置するなど森の京都の推進体制を構築 ○7月中に戦略拠点のマスタープランを策定 <8箇所以上(⑦新規)＞ ○マスタープランに基づく地域づくり事業の実施 <60事業(⑦新規)＞ ○地域づくり等の実践者の掘り起こし・育成 <100人(⑦新規)＞				◎	○ワークショップ等の開催 146回(146%) ○実践者会議、観光協議会、市町村ごとの協議会を設置 ○6市町でマスタープラン案(8箇所)で策定済み(100%) ○マスタープランに基づく地域づくり事業57事業(95%) ○実践者の掘り起こし・育成(115人)(115%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
達成手段 (数値目標)	②	◎	【豊かな「森」の自然環境・景観の維持・保全】 国定公園の新規指定等を契機に、自然環境・景観を維持・保全する取組を強化します。 ○由良川・桂川上中流域の国定公園指定を実現(平成27年度中) ・関係市町等と連携し新規公園指定記念の式典と関連イベントを開催 ・記念モニュメントを設置し、公園サイン計画を策定 ○インストラクター、ネイチャーガイドの育成 <30人以上(㊦新規)> ○地域でのワークショップ等により、森の京都ビジターセンター基本構想を策定 ○モデルフォレスト運動等森林保全活動の推進に向け、地域や団体等へモデルフォレスト運動等への参加の働きかけ強化
	③		【「森の京都」スタイルの生活の再定義・発信】 森の恵みを活かした食や伝統文化、産業など森に包まれた暮らし方である「森の京都」スタイルの確立と情報発信、グリーンツーリズム・観光など新たな森林ビジネスの創出等により地域資源の貨幣価値化(雇用創出や所得確保等)を図り、定住・半定住を促進します。 ○実践者会議等のワークショップを通じて「森の京都」スタイルの暮らし方や価値を確立し、旅行雑誌、SNS等により情報発信 <雑誌掲載 50回以上(㊦新規)> (移住促進) ○京都移住コンシェルジュによる移住相談から定住までの一貫した支援や、空き家改修などによる住宅の確保により農村漁村への1集落1移住を促進します。また、農地と空き家をセットにした移住支援や、企業等による農地保全活用の拡大・強化等により、耕作放棄地の解消と空き家の利用を促進するため、条例を制定します。 ・農山漁村地域への移住 <80集落(㊦新規)、180人(㊤実績:108人)> ・農山漁村地域における空き家の利活用数 <80戸(㊤実績:41戸)> ・「京都府農山漁村地域における耕作放棄地・空家に関する条例(仮称)」の制定
			○「里の公共員」の配置、「里の仕事人」の伴走支援等による農村再生運動を推進(綾部市、南丹市美山に新規配置) (㊤実績:里の公共員の配置6地区) ○ゆったりとした暮らし(スローライフ)に憧れる都市部の若者(女性)の起業を支援 <ちょこっとビジネス講座受講者 20人(㊦新規)> ○専門家等の指導・助言による森の食文化のブラッシュアップ・発信 <地域特産メニューの開発数 5件(㊦新規)> ○「森の京都クラフトモール」の中核施設として、京都新光悦村に職人工房を整備するとともに、「森の京都」ゆかりの素材を使い、工房と企業、デザイナー等とのコラボによる製品等の展示販売会を開催 ・「森の京都クラフトモール」形成計画の策定 ・展示販売会来場者数 <700人(㊦新規)>
		◎	○新規国定公園(京都丹波高原国定公園)の指定済み(100%) ・記念式典開催済み(100%) ・モニュメント設置、公園サイン計画策定(100%) ○インストラクター、ネイチャーガイドの育成 20人(67%) ○森の京都ビジターセンター基本構想策定済(100%) ○府民参加型モデルフォレストの参加団体数 103団体(100%)
		○	○テレビ、新聞、雑誌、Webで森の京都関連の情報発信 35回(70%) (移住促進) ・農山漁村地域への移住 288人(160%) ・農山漁村地域における空き家の利活用数 142戸(178%) ・「京都府移住の促進のための空家及び耕作放棄地等活用条例」制定済み(100%)
		○	○里の公共員配置地区数:累計8地区、里の仕事人・仕掛人の派遣による地域連携組織が行う祭や交流イベントの取組数:217件(100%) ○ちょこっとビジネス講座参加人数27名(135%) ○農工商連携や6次産業化により新たな地域産品を開発3件(60%) ○森の京都クラフトモール ・形成計画の策定に向け、協議中(40%) ・展示販売会来場者数:800人(114%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)	
④	【森の恵みや文化を体感・享受できる拠点・コンテンツづくり】 森の恵みや文化を体感・享受できる拠点・コンテンツづくりを進め、交流産業の振興による地域経済への波及効果の創出等を実現します。 ○道の駅を中心とした「小さな拠点」モデルの構想策定を支援し、整備に向け国に提案・支援施策の採択を目指す。 ○地域でのワークショップ等により、森の京都ビジターセンター基本構想を策定【再掲】 ○民間資本による宿泊施設等の誘致を推進(PFI、廃校活用) ○グランピング、クラインガルテンの展開 ○声生トロッコ軌道活用や青空バスの運行等の基本構想策定 ○グリーンツーリズムの推進など、森林ビジネスの創出や、空き家を活用したビジネスの展開 ○美しい農山漁村景観の維持・活用による交流観光産業を創出する「美しい京都村」づくりを地域創造拠点とも連携し推進 ＜明日の京都村づくり事業取組地区数 累計16地区(26実績:2地区)＞ ＜府の支援による農家民宿開設数・宿泊者数 累計67軒・5,000人(現況:59軒・4,400人)＞ ＜命の里づくり取組地区数 31地区＞ ○集落ぐるみで新たな地域特産物づくりに取り組む地区数 <30地区以上> ○スポーツ観光の推進 ＜京都丹波トライアスロン大会の開催 参加者・来場者数 2,000人(27新規)＞ ＜SEA TO SUMMITの開催 参加者 1,300人(27新規)＞ ○里・森の豊富な地域資源を活用した都市・農村交流を促進 ＜教育体験旅行の展開 受入数 2,300人(26実績:1,996人)＞ (ネットワーク化) ○京都縦貫自動車全線開通を活かし戦略拠点等への高速バス等の増便 ○戦略的交流拠点エリア及び拠点間の整備を推進 ・京都広河原美山線(美山町)に案内標識等を整備推進、2車線改良の事業推進 ・綾部宮島線(脇谷バイパス)の事業推進 (地域主導) ・[保津川かわまちづくりエリア]桂川の遊歩道整備等完成 ・[京丹波高原エリア]道の駅「京丹波味夢の里」付近桧山須知線交差点改良等完成 ・[大江山・三岳山エリア]綾部大江宮津線歩道整備等推進	○	○道の駅を中心とした「小さな拠点」モデルの構想策定を支援し、整備に向け国に提案・支援施策の採択を目指す →採択に至らず(50%) ○森の京都ビジターセンター基本構想策定済(100%) ○宿泊施設のインバウンド対策の改修に着手(大江山グリーンロッジ、美山河鹿荘)(100%) ○「京都丹波交流滞在型クラインガルテン」の推進に向けた研究会開催3回 延べ23名参加(100%) ○声生トロッコ軌道の活用:現地調査を実施、青空バス:試行運行実施(70%) ○グリーンツーリズムの推進(100%) ・木質バイオマス利用体験学習を2回開催 ・京都丹波の暮らしぶりを見学する体感ツアーの実施 参加者48人 ○「美しい京都村」づくりの推進 ＜明日の京都村づくり事業取組地区数 14地区(88%)＞ ＜府の支援による農家民宿開設数・宿泊者数 累計71軒 4,540人(106%)＞ ＜命の里づくり取組地区数:28地区(90%)＞ ○地域特産物づくりに取り組む地区数 33地区(110%) ○スポーツ観光の推進 ＜京都丹波トライアスロン大会の開催 参加者・来場者数 6,000人(300%) ＜SEA TO SUMMITの開催 参加者 3,077名(237%) ○教育体験旅行の展開 受入数 2,501人(109%)	
		◎	(ネットワーク化) ○京阪バスが南丹市美山～京北の周遊バスを運行(100%) ・国道162号(美山町)他で案内標識:12基完了(H28.3) ・京都広河原美山線、綾部宮島線(脇谷BP)で事業実施中 (地域主導) ・[保津川かわまちづくりエリア(亀岡市)]事業実施中 ・[京丹波高原エリア(京丹波町)]事業実施中 ・[大江山・三岳山エリア(福知山市)]事業実施中	
⑤		【一体となった成長型林業戦略】 成長型林業推進による収益向上を図ります。 ○大型加工施設の立地を実現し京都府を一つの工場ととらえた連携・協働により京都府林業の6次産業化を目指す。 ・大型加工施設の立地(企業による立地表明) ・府内産素材生産量 <21.6万㎡(27新規)＞ ・協業化に取り組む事業体 <16事業体(27新規)＞ ・森林環境税(仮称)について、府民の理解の高まりや「森林環境の保全等に関する税制研究会(府議会設置)」からの提言を踏まえ導入を図る。 ・木材利用基本方針の策定市町村数 <26市町村(26実績:23市町村)＞ ・「ウッドマイレージCO2認証」等製品出荷量 <22,000㎡＞ ・府内産材利用カタログによる商品購入社数 <10社(27新規)＞ ○丹波広域基幹林道の利活用や府大、森林技術センター等の研究機関との連携により、成長型林業のモデルづくりを推進 ＜「森林経営計画」作成森林の増加 カバー率 30%(26実績:25%)＞ ＜森林業関係者が一同に会する「京都丹波スクール」開催 1回(27新規)＞ ○新たな森林ビジネスの創出に向け、製品開発、バイオマス利用等、需要促進の取組を推進し、森林産業と地域経済を活性化 ＜地域内での製材等加工量 20%増加(2610,900㎡→2713,000㎡)＞ ＜木質バイオマス利用体験学習 2回(27新規)＞	◎	・大型加工施設の立地 →企業による立地表明有(12月24日) ・府内産素材生産量 <21.6万㎡＞ →集計中 ・協業化に取り組む事業体 20事業体(125%) ・平成27年12月議会において「豊かな森を育てる府民税条例」可決(100%) ・木材利用基本方針の策定市町村数 26市町村(100%) ・「ウッドマイレージCO2認証」等製品出荷量 →集計中 ・府内産材利用カタログによる商品購入社数 50社(500%) ・「森林経営計画」作成森林の増加 カバー率 27%(90%) ・森林業関係者が一同に会する「京都丹波スクール」開催 1回(100%) ・地域内での製材等加工量 20%増加(2610,900㎡→2713,000㎡) 60%増(300%) ・木質バイオマス利用体験学習 4回開催(200%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	【「森の京都」の魅力の効果的プロモーション・観光誘客の推進】 ○「森の京都博(仮称)」の実施計画の策定 ○平成28年度開催の全国育樹祭を「森の京都」を象徴する行事として、府民への浸透を図り、モデルフォレスト運動10周年に向け、広がりのある運動に発展 ＜府民公開講座(森の京都学)の開催 4回(㉗新規)＞ ＜1年前キックオフイベントの開催 5市町(㉗新規)＞ ＜モデルフォレストDAY参加者の拡大 5,000人(㉖実績:4,000人)＞ ＜緑のこどもサミットの開催 参加者数 300人(㉖実績:150人)＞ ＜丹波広域基幹林道ウォーキングの開催 1回(㉗新規)＞ ＜教育体験旅行受入人数 2,300人(㉖実績:1,996人)＞【再掲】 ○「森の京都」の魅力を観光資源として情報発信し、「森の京都」のブランドイメージの形成と観光誘客を推進 ・「森の京都音楽祭(仮称)」及び関連事業を開催 ・観光事業者、出版社等と連携した特集記事掲載の共同企画の実施 <4企画(㉖実績:3企画)＞ ・観光・交通事業者等と連携した「森の京都観光ツアー」を実施 <3企画(㉗新規)＞ ○「森の京都博(仮称)」開催に向けた便益施設等の整備		○「森の京都博(仮称)」の実施計画策定済み(100%) ○「全国育樹祭」の浸透、モデルフォレスト運動を広がりのある運動へ ＜府民公開講座の開催＞4回開催済み(100%) ＜1年前キックオフイベントの開催＞ 6市町開催済み(120%) ＜モデルフォレストDAY参加者の拡大＞ 5,000人(100%) ＜緑のこどもサミットの開催＞ 参加者数143人(48%) ＜林道ウォーキング＞ 1回(京丹波町コース)(100%) ＜教育体験旅行受入数＞ 2,501人(109%) ○「森の京都」の情報発信、ブランドイメージの形成と観光誘客を推進 ・特集記事:4企画(100%) ・ツアー:3企画(100%) ○「森の京都博(仮称)」の地域イベント等が展開される市町交流拠点の整備支援制度を創設 (市町支援支援事業を創設、未来づくり交付金でソフト・ハード一体支援)(100%)

3 ～3つの京都プロジェクト～【お茶の京都】 日本遺産認定を弾みに「お茶の京都」の取組を具体化・加速化させます。					
計画区分	中期計画	京都力の発揮	希望に輝く地域づくり		
達成手段 (数値目標)	①	【全体マネジメント】 平成29年度のターゲットイヤーに向け、「アドバイザー」と連携しながら、各戦略地域等においてワークショップ等を開催し、お茶の京都エリア全体の地域づくりを効果的に進めます。＜ワークショップ等の開催 100回以上(㉗新規)＞ ○住民・実践者や有識者等による「お茶の京都実践者会議」と全市町村による地区協議会を設置するなどお茶の京都の推進体制を構築 ○全市町村で戦略拠点のマスタープラン策定 <12箇所以上(㉗新規)＞ ○マスタープランに基づく地域づくり事業の実施 <100事業(㉗新規)＞ ○地域づくり等の実践者の掘り起こし・育成 <200人(㉗新規)＞			○現地意見交換会・ワークショップ等の開催 128回(128%) ○マスタープラン策定:実績11箇所(92%) ○マスタープランに基づく事業の実施・計画検討 155事業(155%) ○地域づくり等の実践者の掘り起こし・育成 189人(95%)
	②	【宇治茶の価値の再発見、景観やお茶文化の維持・継承】 茶畑景観等を維持・継承し、宇治茶の価値の再発見・向上を図るため、日本遺産『日本茶800年の歴史散歩』～京都・山城』をさらにブラッシュアップするとともに、世界文化遺産登録に向けた府民運動を展開するなど、お茶文化の振興、普及・拡大を図ります。 (茶畑景観等の維持・継承、世界文化遺産登録推進) ・地域ぐるみでの景観保全を進めるため府景観資産登録の拡大 ＜構成資産候補 2市3集落(木津川市1、宇治田原町2)＞ ・登録要件である文化財保護法上の選定(重要文化的景観及び重要伝統的建造物群保存地区)を受けるため、構成資産の文化的価値を明らかにする調査事業の着手 <1地区＞ ・シンポジウム、京都文教大学との連携による文化講座等の開催など機運の盛り上げ <講座開催 5回＞ ・国内暫定リスト入りの門戸開放に向けて、日本イコモス関係者や文化庁世界遺産担当者との現地意見交換会、要請活動の実施 <4回＞ ○日本遺産『日本茶800年の歴史散歩』～京都・山城』を活用した認定記念シンポジウム、構成資産調査、お茶の魅力の情報発信などの取組強化 (お茶の文化の普及・拡大) ○宇治茶ファンの拡大と消費拡大に向けターゲットを絞った取組、子ども達へのお茶育の推進 ・「宇治茶ムリエ」を育成 <1,000人(㉗新規)＞ ・出前講座「宇治茶ムリエ」養成講座を開設(㉗新規) ・管内の企業等で出張講座を開催 <開催回数30回(㉗新規)＞ ・小学生を対象とした「キッズ茶ムリエ」検定を開催 <開催回数4回(㉗新規)＞ ・学校給食等での急須でいれるお茶の普及促進			＜府景観資産登録の拡大＞ ・宇治田原町で3集落が提案済み(100%) ＜調査事業の着手＞ ・和東町:10/23に重要伝統的建造物群保存地区の選定に向け地元説明会を開催、1/20に地元役員との意見交換会、1/28に高知県へ先進地視察を実施 ・南山城村:2/9に重要文化的景観選定に向け景観行政団体移行協議完了 ＜シンポジウム、文化講座の開催＞ 京都文教大学との連携による文化講座等の開催6回(120%) ＜現地意見交換会、要請活動の実施＞ ・現地意見交換会1回、要請活動(文化庁3回、日本イコモス関係者3回)(175%) ○＜日本遺産の発信＞(100%) ・日本遺産認定記念シンポジウム開催(9/5) ・もうひとつの京都スピノフムービー(日本遺産版)作成 ・日本遺産魅力発信推進事業を活用したガイドブック作成やバスツアー実施等に向けた調整・推進 ＜お茶の文化の普及・拡大＞ ・宇治茶ムリエ育成 1,024人 (102%) ・「宇治茶ムリエ」養成講座開設(8月)(100%) ・出張講座(28回)(93%) ・キッズ茶ムリエ検定(4回)(100%) ・学校給食等での急須でいれるお茶の普及促進

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	○宇治茶ブランドを確立し、茶道やハレの日のお茶としてPRするとともに、水出してん茶・玉露など新しい飲み方を提案し、 日常的に使うお茶としての利用を拡大 ・年間通じた宇治茶イベントへの参加者数 <10万人(㉗新規)> ・「お茶の京都博(仮称)」に向け、「Uji-CHA Fair」を山城各地で開催 <30回(㉗新規)> ・「宇治茶おもてなしパス」の運行 <10回(㉗新規)> ・宇治茶スイーツパスポートの発行 <2万部(㉗新規)> ○最高級宇治茶を理解できる層にターゲットを絞り、新しい飲み方やボトルティーなど新製品を戦略的に普及・販売 ・SNSを活用した宇治茶ファンを確保 <1万人(㉗新規)> ・フェイスブック(宇治Love)による宇治茶の魅力発信 ・新しい宇治茶の飲み方(水出してん茶等)を提案する消費拡大イベントを開催 <参加者3,000人(㉗新規)> ・宇治茶協力販売店等の首都圏進出支援 <5店舗(㉗新規)> ・ミラノ万博において宇治茶の輸出に向けた商談会等を行う団体を支援 <商談会等10回(㉗新規)> ・輸出用宇治茶の生産拡大 <実証ほの設置3箇所、現地検討会3回(㉗新規)>	○	<お茶の利用拡大> ・宇治茶イベントへの参加者数(13万人)(130%) ・「Uji-CHA Fair」イベント(30回開催)(100%) ・お茶所パスの運行(31回)(310%) ・京都スイーツマップの発行(2万部)(100%) <お茶の戦略的普及・販売> ・SNSを活用した宇治茶ファン(3981人)(40%) ・フェイスブック(宇治茶love)による宇治茶の魅力発信(4月～)(100%) ・消費拡大イベント開催(参加者数28,000人)(933%) ・首都圏進出(5店舗)(100%) ・ミラノ万博等での商談会等開催数(10回)(100%) ・輸出用宇治茶の生産拡大(実証ほ3か所、現地検討会3回)(100%)
③	【交流エリアの創出、ネットワーク化】 日本遺産認定を活用し各種拠点のネットワーク化を支えるソフト・ハードの基盤を整備し、TEAツーリズムの仕組み化を図り、地域資源の貨幣価値化(雇用創出や所得確保等)を実現します。 (戦略的な交流拠点づくり) ○地域でのワークショップ等を重ね、地域と協働でお茶の文化・魅力を活かす戦略(マスタープラン)を策定した地域から、交流拠点づくりを推進 <ワークショップ等の開催 100回以上(㉗新規)> ・普賢寺ふれあいの駅(京田辺)、環の拠点(木津川)、和東茶カフェ(和東) ○やましろ八十八景、宇治茶カフェなどを活用したお茶の駅(トスポ)整備計画策定 ○お茶の拠点を回遊するTEAツーリズムの仕組み化 ○ホテルやオーベルジュなど民間資本の宿泊施設誘致 ○ワンストップの相談窓口を設置するなど、空家を活用した民宿等の開設支援 (ネットワーク化) ○交流拠点等を結ぶ「宇治茶かおり回廊」を活用した広域回遊のシステムづくりなど既存施設や戦略拠点のネットワーク化 ・お茶の京都回遊システムマスタープラン策定 ・広域的サイクリングコースの設定、マップ作成 ・山城地域への定期観光バスの運行拡充 ・「宇治茶かおり回廊」の整備(案内板等) ○「お茶の京都」関連施設の整備を推進 ・大津南郷宇治線(宇治市)の歩道整備・修景舗装の完成 ・八幡城陽線上津屋橋(流れ橋)の復旧工事推進 ・和東川の遊歩道整備等完成(地域主導) ・笠置町・白砂川親水護岸・遊歩道整備完成(地域主導)	○	<戦略的な交流拠点づくり> ○マスタープラン策定:実績11箇所(92%) ・現地意見交換会・ワークショップ等の開催 128回(128%) ○マスタープランに基づく事業の実施・計画検討 155事業(155%) ・お茶所パスの運行(31回)(310%) ・京都スイーツマップの発行(2万部)(100%) ・宇治茶協力販売店等首都圏進出(5店舗)(100%) ・市町村(京田辺市等)連携し、民間ホテル誘致に向けた情報収集・調査等を実施 ・山城管内での初のレストラン開業(和東町・5月) <ネットワーク化> ・「宇治茶かおり回廊」整備マスタープランに基づき、メインルートの案内標識を整備(100%) ・市町村と連携し、日本遺産構成文化財の解説板・案内板を整備(100%) ・日本遺産を巡る定期観光バスツアー運行(100%) ・お茶の京都(日本遺産)ガイドブックの作成(100%) ・広域サイクリングコースの設定・マップ作成(100%) <拠点関連施設の整備> ・[宇治橋周辺地区(宇治市)]大津南郷宇治線(宇治市)の歩道整備・修景舗装の完成(H27.8) ・[やわた流れ橋交流プラザ付近エリア(八幡市)]八幡城陽線上津屋橋(流れ橋)の復旧工事完成 ・[茶源郷エリア(和東町)]完成済 ・[わかさぎ温泉笠置いこいの館～笠置山エリア(笠置町)]事業実施中 ・国道307号(宇治田原町)等 案内標識:7基完了(H28.3)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
④	【お茶産業のイノベーション創出】 茶業研究所を核に、世界に通じる「宇治茶」の新たな価値を創出するとともに、お茶の機能性を引き出し新商品の開発や新たな産業展開を図ります。 (茶業研究所機能強化・整備) ・茶業関係者、大学、企業等との連携による 宇治茶新技術推進会議(仮称)の設置 ・茶業研究所整備 基本・実施設計の策定 ・宇治茶アカデミーへの参加者を拡大 <25人(㉔実績:20人)>【山城局】 (お茶の新商品開発、販売単価向上・ブランド化) ・販売単価の5%アップを目指します <荒茶生産額72億円(㉔実績:66億円)、2,623円/kg(㉔2,498円/kg)>【山城局】 ・宇治茶プレミアムブランド(手摘み玉露)、ボトリングティー(手摘みてん茶)の開発【山城局】 ・新しい飲み方の提案(水出してん茶)、宇治茶カフェの首都圏進出支援 (お茶の生産量拡大、品質向上) ・生産量を4%拡大 <2,750t(㉔実績:2,640t(110t増加)> ・大規模集団茶園増収 <技術情報チラシ50部、現地濃密指導5回(㉔新規)> ・担い手への茶園集積と機械作業に対応した生産性の高い茶園整備推進(宇治田原町湯屋谷地区) ・「宇治茶GAP」実践農家率の向上 <70%(㉔実績:56%)> ・老朽茶園の改植15ha、被覆棚整備5ha	○	<宇治茶新技術推進会議(仮称)の設置> ・宇治茶新技術推進会議の開催(100%) ・新製品開発や賞味期限延長技術、品種育成及び輸出対策技術等の重要研究課題に係る連携推進について検討 <茶業研究所整備> ・基本設計・実施設計完了。 ・宇治茶・アカデミー 募集中(43名)(215%) <新商品開発・ブランド化> ・荒茶生産額(77億円)(107%)、販売単価(2,698円851円/kgの増) ・ボトリングティー開発(6月) ・宇治茶協力販売店等(首都圏進出(5店舗)) <お茶の生産量拡大、品質向上> ・荒茶生産量(2,869t)104% ・低温による減収回避(技術情報ちらし800部、現地研修会15回) ・大規模集団茶園の増収(技術情報ちらし50部、濃密指導5回) ・湯屋谷地区:実施設計書作成完了 ・宇治茶GAPの実践農家率(76%) ・改植面積 :11.2ha(75%) ・被覆棚整備:7ha(140%)
	【宇治茶文化・魅力の効果的プロモーションと観光誘客】 ○「お茶の京都」の魅力を観光資源として情報発信し、「お茶の京都」のブランドイメージの形成と、観光誘客を推進 ・観光事業者、出版社等と連携した特集記事掲載の共同企画の実施 <4企画(㉔実績:3企画)> ・観光事業者、交通事業者等と連携した「お茶の京都観光ツアー」の造成と定期観光バスツアーとしての運行 <3企画(㉔新規)> ・「お茶の京都観光協議会」の運営による、お茶の京都推進体制の強化 ・観光消費額 <186億円(㉔実績:集計中、㉔実績:134億円)> ・観光入込客数 <1,155万人(㉔実績:集計中、㉔実績:963万人)> ○スポーツ観光の推進 ・ツアーオブジャパンの開催準備 ・和束町でのマウンテンバイクの日本自転車競技連盟(JCF)認定コース化による全国大会開催支援 ・「抹茶スイーツ」「茶畑景観」等の「お茶の京都」の魅力を楽しめる初心者向けサイクルイベントの開催		・特集記事:5企画(125%) ・ツアー造成、定期観光バス:ツアー3企画(100%) ・協議会開催:6回 ・観光消費額、入込客数:集計中 ・京都ステージ実行委員会設立(H27.7.31) ・第19回大会日程決定(京都ステージH28.5.30) ・京都ステージコース決定(H28.1.29) ・第2回京都ステージ実行委員会開催(H28.3.28) ・和束町日本自転車競技連盟(JCF)認定コース化によるマウンテンバイク全国大会開催支援 ・たびーら・宇治抹茶スイーツライド(9/13、約160名(定員)参加)

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
4 「和食」の聖地化、及び「天橋立」「宇治茶」の早期世界遺産登録や日本遺産登録をめざします。					
計画区分	中期計画	京都力の発揮	希望に輝く地域づくり		
達成手段 (数値目標)	①	○「和食」の聖地をめざし、オール京都の推進体制である「京都・和食文化推進会議」を運営し、顕彰事業等をはじめ京都ならではの取組を実施します。 ・参加団体 <500団体(26実績:250団体)> ・和食文化顕彰制度の創設・顕彰 ○府立大学における和食文化に関する学部・学科の早期設置に向けた準備を進めるとともに、和食文化に関連する企業や大学との連携・協力を進めます。 ・文理融合の学部横断プログラムの開設及び府民向け講座の開講 ・和食文化に関する学部・学科の設置及び研究機能の整備に向けた準備 ・和食文化に関する学問体系の構築や教育内容・方法の検討を進めるとともに、和食文化に関連する企業との連携促進や大学との「和食文化教育コンソーシアム(仮称)」の設置 ○京料理をはじめ和食の魅力を体感できる「京都・和食の祭典」開催 <参加者4,000人(26実績:3,500人)> ○「天橋立」「宇治茶」の世界遺産登録に向けて、「暫定リスト」拡大を国に働きかけます。 ○市町村と連携し、天橋立をはじめ「日本遺産登録」に向けて国に働きかけます。		○	○和食の取組推進 ・参加団体<268団体>(54%) ・和食文化顕彰制度の創設・顕彰 → 4/1表彰式典開催(100%) ○府立大学における和食文化に関する学部・学科の早期設置、和食文化に関連する企業や大学との連携・協力 ・【食文化】【健康・栄養】【人文・社会】【環境】等、和食を構成する分野からなる学部横断プログラム「和食の文化と科学」を実施するとともに、府民向けのリカレント学習講座を実施した。 ・8月に「和食文化の高等教育機関」開設に向けた専門家会議を立ち上げ、学部(学科)の設置計画、カリキュラム等を府大で検討した。 ・学部(学科)立ち上げに向けた取組を加速するため、9月に京都府、府大、有識者、食関連企業、関係団体によるキックオフ共同記者会見を実施した。 ○「京都・和食の祭典」参加者数:5,000人(125%) ○政策提案活動により、世界遺産暫定リスト入り、日本遺産認定を文部科学大臣に提案。 ○宇治茶世界遺産暫定リスト入り要請活動を3回実施(文化庁3回、日本イコモス関係者3回) ○日本遺産認定等に係る文化庁との協議・働きかけを7回実施

5 城陽市東部丘陵地の広域的な視点からの地域づくりを推進します。					
計画区分	中期計画	京都力の発揮	希望に輝く地域づくり		
達成手段 (数値目標)	①	○城陽市東部丘陵地において、新名神高速道路などの広域交通インフラの整備インパクトを最大限活用できるよう、高次の商業機能や国際的な物流機能等の導入をめざします。 ○このため、城陽市東部丘陵地等あり方検討会での「地域展開の基本的な考え方」に沿って当該地域の段階的な整備が進むよう、諸課題に係る関係機関の調整を行うとともに、平成27年度に先行整備地区の市街化区域編入手続きを進めます。 ○また、将来にわたり東部丘陵地の秩序ある土地利用を図れるよう、市の条例などによる無秩序な土地利用の防止策の検討を支援します。		○	○城陽市東部丘陵地の先行整備地区(長池、青谷)の市街化調整区域編入を実施(平成28年5月10日告示済) ○「城陽市東部丘陵整備計画見直し検討会」へ参画・検討(4回)する中で、秩序あるまちづくりのための市条例の制定に向けた検討を実施し、平成28年4月1日に城陽市東部丘陵地まちづくり条例及び同施行規則を施行。

運営目標				達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
6 「みやこ構想」について、セカンドステージの実現に向けた取組を進めます。					
計画区分	中期計画	京都力の発揮	希望に輝く地域づくり		
	①	○「海」「森」「お茶」の3つの京都プロジェクトと連携しながら、みやこ構想のセカンドステージの着実な推進のため実効あるマネジメントを行います。			○各構想のマネジメントのため、各構想リーダー等からのヒアリング、予算要求状況把握等を実施
		【丹後・食の王国構想】 ○「丹後あじわいの郷」を「丹後王国『食のみやこ』」としてリニューアルし、丹後の本物の食を味わう拠点、丹後食材を使ったオリジナル特産品開発(6次産業)や「食」に関わる人材育成を行う10次産業化拠点、そして、丹後地域の観光拠点として位置づけ、地域の活性化を推進します。 ＜入園者数 50万人(㉗新規)＞ ＜「食」に係わる人材育成 50人(㉗新規)＞ ＜高校生、大学生考案による地域食材にこだわったレストランの開催 7校(㉖実績:7校)＞ ＜漁獲当日に京都市内の量販店で販売される府内水産物 36t(㉗新規)＞ ＜新たな高品質水産物の生産・出荷の開始 2魚種(㉗新規)＞		○	・入園者数:52.6万人(105%)(H28.3.13現在) ・「食」に係わる人材育成:90人(180%) ・高校生、大学生考案による地域食材にこだわったレストラン開催:7校(100%) ・漁獲当日に京都市内の量販店で販売される府内水産物 20t(2月末時点)(56%)
		【日本海観光構想】 ○「海の京都」のターゲットイヤー(H27)において、滞在交流型イベント「海の京都博」を地域が一体となって開催するとともに、官民一体となった「海の京都観光推進協議会」のもと、全国有数の観光地としてのブランドを形成します。 ・海の京都の認知度の向上と継続的な観光誘客を推進するため、「海の京都博」を開催します。 ・国の認定を受けた「海の京都観光圏」の整備事業を民間事業者等と連携して実施 ＜25事業(㉖実績:23事業)＞ ・各市町において「海の京都」の統一コンセプトに基づき、魅力ある景観形成を支援 ＜15施設以上(㉖実績:13施設)＞ ・ロゴマーク統一や機能強化による海の京都観光圏案内所の整備 ＜10箇所＞ ・ジオパーク観光をはじめ、観光地域づくりマネージャーと連携した滞在型ツアーの実施 ＜8ツアー以上＞ ・TANTANロングライドで「海の京都」を全国からの参加者にPR 参加者数 ＜1,500人(㉖実績:1,380人)＞ ・上記の取組等により、大交流1,000万人(年間入込客数)を創出		○	・海の京都博7/18～11/15で実施 (100%) ・「海の京都観光圏」整備 14事業 (56%) ・景観形成を支援9施設(申請は10施設、1件交付決定後に取り下げ) (60%) ・案内所の整備12箇所 (120%) ・滞在型ツアー31ツアー(コンセプトツアー7、体験プログラム24) (388%) ・参加者数1,651人 (110%) ・年間入込客数:集計中
		【京都舞鶴港ランドブリッジ構想】 ○京都舞鶴港を京都府の物流ネットワークの拠点とし、関西経済圏における日本海側ゲートウェイとしての役割をさらに発揮するため、対岸諸国との定期航路を拡充するとともにクルーズ客船の誘致に取り組み、京都舞鶴港の機能を強化します。 ・コンテナ取扱量 ＜15,000TEU(㉖実績:9,082TEU)＞ ・日韓露フェリーを利用した出入国者の数 ＜5,000人(㉗新規)＞ ・日韓露フェリーの利用拡大のための物流振興組織の設立 ・クルーズ客船の寄港決定数 ＜18寄港(㉖実績:15寄港)＞ ・クルーズ船乗客数 ＜10,000人＞ ・貿易取扱量 ＜1,131万t(㉖実績:1,075万t)＞ ・定期航路数 ＜4航路(㉖実績:3航路)＞		○	

運営目標		達成区分		達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
達成手段 (数値目標)	【北京都ものづくり拠点構想】 ○北部リサーチパーク(仮称)を具体化し、産業人材の育成や産学公連携による新産業育成などを推進し、丹後・中丹地域を中心としたものづくり産業の集積と高度化を推進します。 ・北部リサーチパーク構想の具体化、産学公連携共同研究開発の推進 <8件(㉗新規)> ・人材育成や工織大等と連携した産学公連携等の機能整備の推進、研究成果発表 <3件(㉗新規)> ・地域企業、綾部市、工織大との連携		◎	・北部リサーチパーク構想の具体化、産学公連携共同研究開発の推進:研究開発数10件(125%) ・人材育成や工織大等と連携した産学公連携等の機能整備の推進、研究成果発表:研究成果数 4件(133%) ・地元企業、綾部市、工織大との連携→トップ級会議開催によるコンセプトの確認、ワーキンググループによる必要ソフト機能の検討(100%)
	【由良川里山回廊構想】 ○由良川沿いに広がる優れた里山資源を活かし、里山を巡る回廊の整備を進めるとともに、訪れる人々が里山の生活文化を体感できるようにします。 ・地域や団体等へモデルフォレスト運動等への参加の働きかけ強化による運動の推進 <参加者数 760人(㉗新規)> ・地域の飲食店が行うジビエ料理のメニュー開発の支援等によりジビエフェア参加店を確保 <38店(㉖実績:28店)> ・府の支援による農家民宿の開設数(累計) <28軒(新規6軒)(㉖実績:新規3軒)> ・SEA TO SUMMIT開催等によるアウトドアスポーツ愛好者等の誘客 <参加者数 1,300人(㉗新規)> ・集落リーダーの育成や集落の維持、再生、自立、発展に向けた支援 <支援集落数 81集落(㉖実績:80集落)>		○	・参加者数:872人(115%) ・ジビエフェア参加店数:31店(82%) ・農家民宿の開設数:累計27軒(96%)、新規 5軒(83%) ・参加者数:3,077人(237%) ・支援集落数:80集落(99%)
	【京都丹波「食と森の交流の都」構想】 ○我々の生命を育む源でもある「森」をテーマに、森・川・里の織りなす景観や環境・文化・生活を多面的な角度からとらえ未来に受け継ぐとともに、発信し、多角的に活かす地域となることをめざします。 ・教育体験旅行受入人数 <2,300人(㉖実績:1,996人)> ・丹波広域基幹林道ウォーキングの開催 <1回(㉗新規)> ・府民公開講座(森の京都学)の開催 <4回(㉗新規)>		◎	・教育体験旅行の受入 47地区 2,501人(109%) (うち農家滞在 10地区 555人)(222%) ・林道ウォーキング 1回(京丹波町コース)(100%) ・府民公開講座(森の京都学)の開催:4回(100%)
	【新京都伝統工芸ビレッジ構想】 ○「森の京都クラフトモール」の核施設として、京都新光悦村に職人工房を整備するとともに、「森の京都」ゆかりの素材を使い、工房と企業、デザイナー等とのコラボによる製品等の展示販売会を開催します。 ・「森の京都クラフトモール」形成計画の策定 ・展示販売会来場者数 <700人(㉗新規)>		○	・形成計画の策定に向け、協議中 ・展示販売会来場者数:800人(114%)
	【北山文化環境ゾーン構想】 ○総合資料館・植物園や府立大学などが一体となった文化・学術・環境の交流発信拠点形成を着実に進め、多様な京都文化の魅力を内外に発信します。 ・植物園入園者数 <90万人(㉖実績:88.7万人)> ・陶板名画の庭入園者数 <5万人(㉖実績:4.6万人)>		○	・植物園入園者数 882,524人(98.1%) ・陶板名画の庭入園者数 62,155人(124.3%)
	【京都クロスメディアパーク構想】 ○クロスメディアクリエイティブセンター(KCC)を中心に、海外展開やコンテンツ関連企業の立地を促進するとともに、異業種の企業間交流や人材育成、映画の国際共同制作など、コンテンツのクロスメディア化を推進する体制を強化して京都のブランド産業として大きく発展させ、クロスメディアコンテンツ産業の育成を強力に推進します。 ・コンテンツ関連企業を中心とした企業支援 <160件(㉖実績:160件)> ・若手クリエイターの育成者数 <80人(㉖実績:77人)> ・KCCの本格展開に向けた検討の実施 ・東京や海外との連携強化による映画・映像産業振興の拡充。京都チャンネル(仮称)の開設		◎	・コンテンツ関連企業を中心とした企業支援:168件(105%) ・若手クリエイターの育成者数:81人(101%) ・KCCの本格展開に向けた検討の実施→協定仲介、推進会議開催準備ほか(100%) ・東京や海外との連携強化による映画・映像産業振興の拡充。京都チャンネル(仮称)の開設→TIFF連携事業の実施、デモイメージ作成(75%)
	【知恵産業首都構想】 ○「京都産業育成コンソーシアム」のもと、中小企業が知恵を学び、知恵に気付き、知恵を生かして生き生きと成長できる「知恵産業のまち・京都」を構築するため、「京都知恵産業支援共同事業」を府市協働で進めるとともに、「知恵の経営」等の事業のワンストップ化を進めます。 ・知恵の経営認証企業 <30社(㉖実績:14件)> ・「京都知恵産業支援共同事業」支援件数 <50件(㉖実績:48件)>		○	・知恵の経営認証企業 9社(30%) ・「京都知恵産業支援共同事業」支援件数:33件 (66%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	【京都乙訓ダイナミックシティーズ構想】 ○乙訓かぐや姫観光推進、賑わい創出・発信 ・竹に関連したプレミアムツアー等新規ツアーの造成 <3コース(㉗新規)> ・「京都・西の観光」を活用した広域ツアーの造成 <2コース(㉗新規)> ・旅行代理店・マスコミ等への市町長によるトップセールスの実施支援 ・乙訓管内イベントへの府北中部物産販売誘致(ガラシャ祭等) <3回(㉗新規)> ・大学生・留学生とのコラボによる、乙訓観光PRコンテンツの作成・YouTube等での発信 ・地元野菜等を活用した観光土産品、特産品の製品化・販路開拓 ○乙訓地域における施策の総合調整 ・大学等研究機関による竹資源活用研究 <1例(㉗新規)> ・竹チップ活用事例研究 <3事例(㉗新規)>		・竹関連プレミアムツアー 3回(100%) ・京都・西の観光広域ツアー 3回(150%) ・首長によるトップセールス実施(10/5)(100%) ・府北中部物産誘致 5回(52事業者) ・大学生・留学生との情報発信(100%) (府名誉友好大使がイベントに同行し、SNSによる情報発信を実施) ◎・12月6日の「おとくに軽トラ朝市」で試験販売実施。(100%) ・府農林水産技術センターにおいて、竹粉の施用による園芸ハウスの塩類集積低減(土壌をやわらかくする)、竹堆肥の利用による難防除ウイルスの土壌中濃度の低減研究(100%) ・活用事例研究(100%) ①トマトの収量等比較研究(京都乙訓農改センター) ②防草のため、公共施設の植栽周囲に頒布(長岡京市) ③二外高架下空地での頒布による防草効果研究(長岡京市とJA京都中央)
	【宇治茶の郷づくり構想】 ○宇治茶づくしをコンセプトに、世界文化遺産登録に向けた宇治茶生産の景観形成、府民運動の拡大を推進するとともに、宇治茶の産業振興の拠点として、企業・大学等と研究交流し、生産から消費までを見据えた研究への転換を目指し、茶業研究所の機能強化に取り組みます。 ・府景観資産登録の拡大 構成資産候補 <3地区> ・重要文化的景観及び重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けた手続き <1地区> ・シンポジウム、京都文教大学との連携による文化講座等の開催 <5回> ・機械作業に対応した生産性の高い茶園整備の推進(宇治田原町湯屋谷地区の整備推進)(㉗新規) ・産官学連携による宇治茶新技術推進会議(仮称)の設置 ・改植面積 <15ha(㉖実績:17.2ha)> ・被覆棚整備 <5ha(㉖実績:4.05ha)>		・構成資産候補:宇治田原町で3集落が提案済み(100%) ・調査事業:2市町村(200%) ・京都文教大学との連携による文化講座等の開催6回(120%) ・担い手への茶園集積と機械作業に対応した生産性の高い茶園整備の推進(宇治田原町湯屋谷地区の整備推進)(100%) ○・宇治茶新技術推進会議の開催(100%) ・改植面積:11.2ha(75%) ・被覆棚整備:7ha(140%) 【未達の要因・理由】 茶価が低迷する中、有利な覆い茶への転換を優先し、未収益の期間が生じる改植は経済的に後回しとなったため
	【京都イノベーションベルト構想】 ○中小企業の新事業を創出するため、産学公連携、企業連携による更なるオープンイノベーション推進の取組強化を図り、京都市から学研都市エリアを中心に京都イノベーションベルト構想を推進します。 ・コーディネータ交流会活動から形成された内容による国プロジェクト等の獲得件数 <5件(㉖実績:2件)> ・試験研究開発から販路開拓・設備投資をパッケージ化した補助金・融資一体の支援により、先進的事例を創出します。 <先進的事例 50社> ・KICKの平成27年度末稼働事業者数 <13件(㉗新規)>	◎	・国プロジェクト等の獲得件数6件(200%) ・先進的事例86社(172%) ・稼働事業者数13件(100%)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
	【学術研究・未来の都構想】【環境・アグリバイオパーク構想】 ○イノベーション創造やスマートシティづくり等を柱とする「ネクスト・ステージ・プラン(仮称、⑳～㉓)」を国等と協働して策定し、切れ目なく取組を進めます。 ○研究機関・企業の立地を促進するとともに、さらなる立地環境の整備を進めます。 ＜分譲面積 15ヘクタール(㉔実績:6.6ヘクタール)＞ ○KICKを中心に最先端の研究交流を推進し、成果の実用化に取り組みます。 ・企業展示等内容の充実を図った京都スマートシティエキスポ2015を開催 ・国内外の自治体や企業等の参画による「スマートシティ・グローバルネットワーク(仮称)」の創設及び交流促進 ・KICKの入居候補となる共同研究グループの新たな組成及び研究テーマの高度化支援 ＜支援件数 10グループ＞ ・KICKの利活用を本格的に促進 平成27年度末稼働事業所数 ＜13件(㉕新規)＞ ○ICTを活用したスマート公共交通システムの導入を目指して取組を進めます。 ・企業集積の拡大に対応した公共交通の充実 - ICTを活用したスマート公共交通システムの早期導入	○	・国交省や総務省等関係省庁が委員として参画する「新たな都市創造委員会」を年度内に3回開催し、「新たな都市創造プラン」を策定。(3月18日開催の第3回委員会で最終案を決定) ・契約済:22.0ha (オリエンタルペーカリー 1ha、祥硯堂 2.25ha、スプレッド1.2ha、モリテックスチール0.65ha、日本果汁0.5ha、ウイスカ1.1ha、マルタカ7.7ha、日本電産2.7ha、日本郵政4.8ha、KEC0.1ha) ・「京都スマートシティエキスポ2015」を開催(5月20日～22日)し、約8,000人参加・115団体出展 ・「スマートシティ・グローバルネットワーク」:設立準備総会(5月21日)、設立総会開催(9月15日)。海外13団体を含む77団体が参画 ・KICK共同研究グループ: 11グループを支援 ・KICK利活用事業所(平成27年度末稼働事業所数): 13件 ・精華町地球温暖化対策地域協議会を設置(11月26日)し、公共交通利用転換事業計画を策定(2月19日) ・連節バスの現地走行実験を実施(10月3日) ・バス事業者と環境省補助金を申請(3月下旬)

目標達成状況(達成区分)		件数	割合
目標達成「◎」	(達成手段のすべてが◎)	0	0%
概ね達成「○」	(達成手段の◎○が2/3以上)	6	100%
未達成「△」	(達成手段の◎○が2/3未満)	0	0%
計(運営目標数)		6	

[達成手段(数値目標)の達成区分]

「◎」…目標達成・上回って進捗(達成率100%以上)

「○」…概ね達成(達成率90%～100%未満)

「△」…未達成(達成率90%未満)